

市立病院だより

ほほえみ



発行 越谷市立病院
 発行人 院長 津村 秀憲
 編集 院内情報誌編集委員会
 連絡先 〒343-8577 越谷市東越谷10-47-1
 電話 048-965-2221 (代)
 F A X 048-965-3019
 発行日 平成26年3月 (No.19)

かかりつけ医を持ちましょう

～二人の主治医があなたを守ります～

医事課 医療連携担当

主査 須賀 英夫

最近、「かかりつけ医を持ちましょう」という標語を院内のあちらこちらで見かける機会が多いと思います。

これは、市立病院の担当医とかかりつけ医の二人の主治医が患者様を診ていきますとの主旨で、院内にポスターを掲示したり黄色の会計票ホルダーの裏面で、ご案内しています。

かかりつけ医を持ちましょう!
 ～二人の主治医が、あなたを守ります～

【かかりつけ医】を通じて診察予約いただけます。当院の医師と連携し、診察できるようになります。
 診察予約していただく際は、診察予約感でお願いいたします。

日常の健康管理をお近くの『かかりつけ医』が診て、入院治療をはじめとする専門的な治療や精密検査等を『越谷市立病院の担当医』が行います。また、経過に応じてかかりつけ医に逆紹介も行います。



現在おかりの主治医または医療連携室（1階）にご相談ください。

病診連携の考え

市立病院では、救急医療を充実させ、地域に根ざした医療を展開することを基本方針の中で定め、より良い医療サービスを提供するために地域の医療機関との病診連携を積極的に進めています。これは、病院と地域の医療機関（診療所）が連携して、それぞれの医療機関などの設備や規模にあった医療サービスを提供する仕組みです。

かかりつけ医について

当院では、医療機関との機能分担、相互連携、高度医療機器の有効活用を念頭におき、地域の皆様に対して効率的で質の高い医療を提供するため、地域の医療機関（診療所）と相互に連携して地域医療を行なっています。そこで、地域の皆様が、お近くの医



院・クリニック等を「かかりつけ医」としてお持ちになることを勧めています。「かかりつけ医」の先生方には、日常の

健康管理や初期の治療を行なういただき、入院をはじめとする専門的な治療や検査が必要な場合には市立病院の担当医が行ないます。



市立病院への受診方法

かかりつけ医の先生から医療連携室を通じて診療予約をしていただきますと、事前にカルテが作成でき診察時間も決まりますので、再診予約と同様に診察がスムーズに行なわれます。また、初診の場合は、初診料の他に、負担していただく選定療養費（千五百円）がかかります。

地域の医療機関への紹介

当院は、救急の患者様や地域の医療機関から紹介された患者様の治療を重点的に行なっています。このため治療の結果、症状の安定した方や治療方針が確定した患者様には、お住まいの近隣医療機関や紹介元の医療機関に逆紹介も行なっています。その際には、先生宛の紹介状をお渡しして、治療を正確に継続していただいております。

市立病院では、今後も地域の基幹病院として、近隣医療機関と連携しながら地域医療の充実を図ってまいります。

夜尿の話

〜たかがおねしょ、

されどおねしょ〜

小児科医師 櫻谷 浩志

先天性腎尿路奇形や慢性腎炎など小児腎疾患は多岐にわたりますが、今回は身近な話題であるおねしょ(夜尿症)についてのお話です。

夜尿症患者数は約五十万人、そのうち医療機関で適切な治療が行われているのは五万人程度と推察されています。小児の夜尿は『五歳を過ぎて週に三回以上夜間睡眠中に尿失禁を認めるもの』と定義され、原因としては膀胱機能及び成熟の遅れ、器質的疾患(尿路奇形など)、遺伝などがあげられます。頻度は五歳で15パーセント、十歳で5パーセント、十五歳で1パーセントと自然治癒も期待できますが、小学校入学以降での治療介入がより有効とされています。夜間尿量の多いタイプ



の多尿型、膀胱容量が小さい膀胱型、夜間尿量が多く膀胱容量も小さい混合型に分類されます。

保護者には『あせらず、起こさず、怒らず』の気持ちで治療に臨んでもらいます。治療は主に生活指導と薬物療法があり、水分・塩分制限や規則正しい生活などの基本的な指導や排尿訓練や便秘の介入を行います。薬物療法としては、膀胱容量を増加させる薬剤(抗コリン薬)と、夜間尿量を減少させる薬剤(抗利尿ホルモン)があり夜尿の型により薬剤を選択します。また、夜尿が起これるとブザーが鳴って知らせる夜尿アラームを用いることもあります。



夜尿症は子供の自尊心低下や生活の質の悪化を認めたり、保護者にも様々な面で負担となり子供との関係を悪化させるケースも少なくありません。前述したように多くの患児が夜尿の治療を受けていないと推測され、『とりあえず様子をみましょう』ではなく、まずは治療のスタートラインに立たせてあげるこ

尿の検査

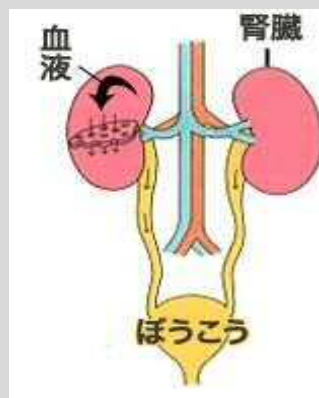
(おしっこで何がわかる?)

臨床検査科 大根田 典子

検査の為に渡される紙コップに尿を採って出した経験は、どなたにもあると思います。では、この尿で一体何をみているか知っていますか?

『尿』は腎臓で血液が体中から運んできた不要な物を余分な水分とともにろ過し、膀胱に排泄してきたものです。その後、尿道を通じて排泄されます。

尿検査は腎や



尿路の疾患を発見しますが、それだけではなく様々な疾病があると本来は含まれるはずのないもの、含まれてはいけな

ものが混じっていることが分かります。ということは尿検査で腎臓や膀胱の異常はもちろ

病、肝臓病などの病気を

ります。

また、検査の代表的な物質には、①蛋白②ブドウ糖③潜血(尿の赤血球)④白血球⑤細菌などがあり、初診時や治療中の病態観察などの為に検査をおこな

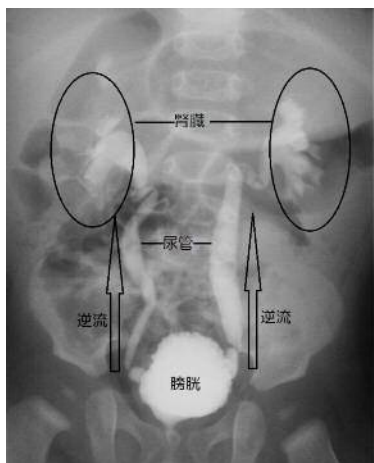
小児の膀胱造影検査について

放射線科 渡邊 操子

放射線科で行われる腎疾患の検査にはMR、CTや腎シンチグラフィなど様々ありますが、今回は小児の膀胱造影検査(逆行性尿路造影検査)についてお話しします。

この検査は膀胱尿管逆流症などが疑われた場合に行われます。膀胱尿管逆流症とは、尿管と膀胱との境目にある尿の逆流を防ぐ構造に異常があり、尿が膀胱から尿管、そして腎臓へと逆流する病気です。検査装置は胃で、リアルタイムに造影剤の動きを見ることができます。検査は、尿道の出口から細いチューブを膀胱内へ挿入して、このチューブからX線写真にうつる造影剤と呼ばれる薬の入った水を膀胱に注入して、膀胱から造影剤が逆流していく様子や尿管・腎盂のあたりをみて写真撮影します。膀胱尿管逆流は排尿時に最も生じやすいため、排尿時(いきんだ時)にも撮影を行います。

写真は両側に膀胱から腎臓へ造影剤の逆流が認められます。



言語聴覚士(Speech Therapist)の紹介

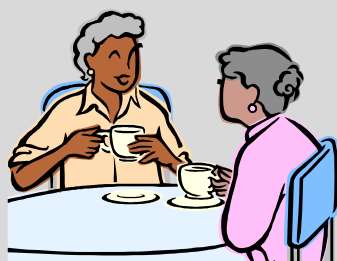
リハビリテーション科 石間 照子

「言語聴覚士」とは、音声機能、言語機能又は聴覚に障害があるものについてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査および助言、指導その他の援助を行うことを業とする者とされています。

平成二十六年四月から、当院リハビリテーション科

にも1名加わることになりました。当科では今まで十分な対応ができなかった「話す・聞く・食べる」といった機能に障害がある方への専門的な支援を、多職種と連携しながら行っていく予定です。脳血管障害や事故などでコミュニケーションに障害をもつ方に対する言語訓練、神経難病や高齢者の体力低下でも起こりうる嚥下障害に対する嚥下訓練など、必要とされる場面は多岐に渡ります。

今回は1名の採用なので、いきなり当院のすべての対象の方を診ていくことはできないと思いますが、徐々に拡大していく予定です。ので、よろしくお願ひします。



新採用医師の紹介

○12月1日付

(小児科) 桜谷 浩志 さくらや こうじ

(小児科) 海老原 慎介 えびはら しんすけ

編集後記

先日、雛人形が展示されていたのを見ました。作家さんの違い、地方ごとの特色、様式の違い、さまざま見ていたら自分の雛人形や母の雛人形、姪っ子や友達のもの思い出しました。それぞれ違って、散々触って汚れていたり、装飾がかけていたり、新しいの、古いの、地味なの、派手なの、いろいろありますが、子供の頃から私は雛人形に見入るのが大好きです。雛人形たちはぼろぼろになっても凜としていて品格を感じ華やかさがあり魅力があるのです。いくら憧れても私がお雛様にはなれません。せめて、人としての魅力を感じてもらえるようになりたいものです。



院内情報誌編纂委員長 尾羽澤 英子